

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

お江戸日本橋へ”

第 22 回

平成 23 年 11 月 12 日から 13 日

ドラマ“江”では 家康が秀忠に將軍職を譲り、駿府で院政を敷いた。各大名はこぞって“駿府詣で”をしているはず！ 我々も 10 月 15 日に伺候すべく計画したが、未曾有の悪天候 川留め に遭うかもしれぬ？ 無理はしないで次を待とう！ 仕切り直しの東海道！ 東に向かって GO！

この企画の、誕生には僕は立ち会っていないが、以後 継続され、22 回目。プロジェクトが、多年に亘るので、旅人達の体力が限界に近い！ 一刻も早く、“お江戸日本橋”に立ちたいと願う。



を設け東海道 57 次とし、現在に至っている

東海道は 1601（慶長 6）年、徳川幕府によって江戸より京都迄の 53 の宿駅を整備した。京・大阪間には京街道 即ち豊臣秀吉が整備を行った「文禄堤」があり、当時は豊臣家がまだ健在であり、遠慮したのか、東海道の延長は行わなかった。その後 1615（慶長 20）年大阪城が落城すると、大坂（高麗橋？）まで延長し伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅

旅人 A	細田 庄一
B	藤井 博伸
C	木本 信男
D	中山 博夫
E（記録）	足立 義明

（1 日目） 11 月 12 日（土） 快晴

バス停岡部 → 岡部宿（21） → 柏屋 → 宇津の谷峠 → 御羽織屋

→ 誓願寺 → 丸子宿（20） → 丁子屋 → 長田西小

距離 7.90km（今日の歩行距離 22.102 * 70cm = 15.47km）

早朝 7 時 00 分 長尾駅前から車で、昨日の雨による霧が、時々顔を出している。高速道を安全に中速で たいした混雑もなく進む。浜名湖 SA で休憩。空は快晴 岡部に向かう途中、やっと会えた“富士の山”！ 正面 横になびく雲の上、真っ白な帽子を被り、優雅に私たちを迎えてくれている。全員うっとりとして見とれた。こんなに感動したのは〇〇以来。今日も良き旅日和 岡部の観光案内所で、民宿を紹介してもらい、歩きの旅に出る。時は 11 時 50 分

御立ち バス停岡部

半年ぶりの岡部 町の中心地”岡部支所“より、歩きの旅に出る。R208 でも良いが、歩きは旧

東海道。明日 岡部祭りが行われるので、その準備の為、街中は少し活気があった。

岡部宿(21)

街道筋には何も無い。宿の歴史は古く、戦国時代に岡部氏が居住していた。今川・武田・徳川の大名に囲まれ、往来が盛んで、交通の要所ではあった。宿場は本陣 2・脇本陣 2・問屋場 2・旅籠屋 21 と小さく、なぜか 1 年遅れで開設されている。割に旅籠が少なかった。旅籠“柏屋”は当時の状況に復元され、宿場の貴重な資産となっている。



大旅籠柏屋

“大旅籠柏屋”は“本陣跡”（現在は岡部公園）に接し R208 に面す。敷地 2348 坪に 100 坪の母屋と数棟の倉からなり、3 度の火災を乗り越え、現在に至っている。現存建物は、天保 7（1836）年に再建されたもので、代々旅籠以外の事業にも携わり、明治には郵便局になった。当時の面影を色濃く残している。岡蒸気の発達により、線路から離れた当地には行交う人も少なくなり、宿場として立ち行かなくなり、開発からも忘れ去られた。それで 今日があるのかも？ 今は登録有形文化財・歴史資料館として、一般に公開されている。前に来たときは、立派な雛人形が飾られていたが、祭の為か、収納され見



当たらなかった。

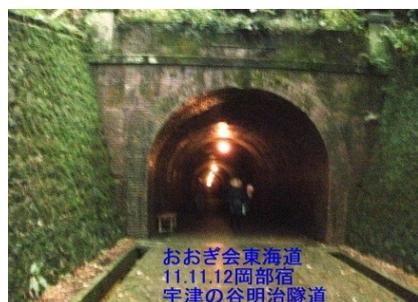
岡部の集落を離れ R208 を峠に向かって進む。道の駅“宇津の谷峠”で R1 と合流し歩道を進んで行く。左前方 2 つのトンネルを見ながら、脇道“鶯の細道”に進んで行く。“坂下地藏堂”横で、雑草の生い茂る古道“旧東海道”をトンネルの上へ登っていく。

宇津の谷峠（宇津の谷隧道群）

道の両側は 鬱蒼とした森、その間を粛々と進んで行く。頂上付近の分岐で、狭い方に道標が？・・・。地元の人に尋ねると広い道は R1 の排気筒だ？ 多分排気筒工事の為に旧街道が削り取られたのでは？訪れる人が少ない、そんな峠はやっと一人が歩ける程度（写真）。ここからは 静岡市 少し下がると“地藏堂跡”さらには“雁山の墓”さらに下れば宇津の谷の村落が見渡せる広場があり、丁度“明治の隧道”の入り口に達する。ここには 峠全体の模型が展示され状況がよくわかる。トイレ休憩をはさみ先に進む。



峠の歴史は非常に古く、平安時代には「鶯の細道」として多く利用されていたが、鎌倉時代、焼津ルートに変わり忘れられた。秀吉が小田原攻めの時 この道を利用し、以後街道として利用され、



標高は 170m と高くはないが、難所ではあったらしい。“明治トンネル”は、有志が金を出し合い（工費 24800 円）両側から掘り進んだ。当初は一直線では無く「くの字」だったらしい？ 完成後、照明用カンテラより失火し、通行不能となる。すぐに改修にかかり延長 203m・巾 5.40m・高さ 3.6m 真直ぐな煉瓦造りの隧道で、日本初の有料トンネル（50 年間）として完成した。時に明治 9 年。明治後期になると車の通行量が増し、大正？年“大

正隧道”が完成し今もR208で活躍している。更に交通量の増加に伴い“昭和トンネル”・“平成トンネル”と眼鏡トンネルが出現し、よって各時代のルートと隧道を見ることが出来ます。しかし東海道線が焼津ルートを通ることになり、行きかう旅人は減少した。気笛一斎新橋を・・・で始まる鉄道唱歌No21に（駿州一の大都会静岡いでて安倍川渡れば、ここぞ宇津の谷の山切抜きし洞の道・・・）と歌っていますがどうなっているのかな？

御羽織屋

“宇津の谷”は山間の小さな集落で、当時の面影を多く残している。その中で“御羽織屋”（天正18年秀吉が、当主の接待に感動し、褒美に陣羽織を与えた。参勤交代の大名が羽織を見に立ち寄ったらしい。）その羽織が、現在も200円で見られるらしいが、先を急ぐ旅 見学はまたの機会に！ 代わりに慶龍寺名物“十団子”を食べながら先を急ぐ。

やがてR1に合流し、また歩道上の人となる。赤目ヶ谷西バス停の先で旧道に入っていく。途中 水路に回らない水車が設けられ“丸子紅茶”の工場？があり、「紅茶発祥の地」と書いてあった。本当かな？



おおぎ会東海道
11.11.12岡部宿
宇津の谷御羽織屋

誓願寺

また R1に戻り“二軒家”から少し北に入ったところに“誓願寺”がある。寺は、建久年間（1190～1199）源頼朝が、両親の追善供養の為に建立したと伝えられている。

片桐且元が、この寺に留まり、家康に、“方広寺の梵鐘”に刻まれた「君臣豊楽国家安泰」について、申し開きするも、家康は納得せず、“冬の陣”が始まった。結果は先週ドラマで秀頼と淀殿の自害となったのはTVでおなじみである。これには続きがあり、20日後に且元が京都で病死したそうなの？ 夫妻の墓（写真）がここにある。

やがてR208を“丸子宿”に向かって歩いていく。



おおぎ会東海道
11.11.12丸子宿
誓願寺片桐且元の墓

丸子（まりこ）宿（20）



険しい“宇津の谷”と“安倍川”に、挟まれた宿場町で、道中人々より「どこまで行きなさる！」「丸子迄…」「ああまりこですか！」と頓珍漢な受け答えをしていたが、この字を「まりこ」と呼べますか？丁子屋で“鞠子宿”（写真下）の意味を納得した。町内住居表示には振り仮名がついていた。宿場の規模は、本陣1・脇本陣2・旅籠屋24・問屋場1と東海道では小さな宿場である。当地は、山で採れる自然薯が有名で、弥次・喜多の道中膝栗毛に出てくる「とろろ汁」は有名で、町には多くの商家が軒を並べていたらしい。やがて正面に“丸子橋”が見えてきた。橋の右手前に“高札場跡”橋の向正面に茅葺きの民家が見える。これが“丁子屋”である。

険しい“宇津の谷”と“安倍川”に、挟まれた宿場町で、道中人々より「どこまで行きなさる！」「丸子迄…」「ああまりこですか！」と頓珍漢な受け答えをしていたが、この字を「まりこ」と呼べますか？丁子屋で“鞠子宿”（写真下）の意味を納得した。町内住居表示には振り仮名がついていた。宿場の規模は、本陣1・脇本陣2・旅籠屋24・問屋場1と東海道では小さな宿場である。当地は、山で採れる自然薯が有名で、弥次・喜多の道中膝栗毛に出てくる「とろろ汁」は有名で、町には多くの商家が軒を並べていたらしい。やがて正面に“丸子橋”が見えてきた。橋の右手前に“高札場跡”橋の向正面に茅葺きの民家が見える。これが“丁子屋”である。



おおぎ会東海道
11.11.12丸子宿
丁子屋

丁子屋



慶長元（1596）年創業で、広重が描いた丸子宿の名物“とろろ汁”の店である。松尾芭蕉「うめ若葉丸子の宿のとろろ汁」と・十返舎一九「けんかする夫婦は口をとがらして蕪とろろにすべりこそすれ」（写真右）の句碑が建てられて



ている。今も暖簾が掛かり商い中、食べるか？話のタネに、夕食には（午後4時前）？早すぎる。

お着き 長田西小



R208 をもう少し先に進もう。紀州藩のご用を務めた“お七里屋”を過ぎ、“本陣跡”（写真）・“問屋場跡”と順調に進むが“丸子一里塚”を見つけられずに“長田西小”に到着する。今日の歩みはここまで。 時は16時30分・歩数22102歩

R1に出、路線バスにて岡部に戻る。近くの民宿「きくや旅館」に向かう。普段は2食付の接待だが、今日は法事で休みの所を無理に宿泊したので、夕食なし。17時30分、食事の為に外出するが、適当な食堂が見つからずウロウロしていた。観光案内所のお姉さんが通り係り、割烹と蕎麦屋を紹介してくれたが、蕎麦屋には、ごはんは売り切れ。高そうな割烹「滝かわ」のみ、とりあえずそこで、一杯のビールと「とろろ定食」を食する。自然薯のとろろ・粘り抜群！料金2350円 宿に帰り入浴後、テレビでバレーを観戦、全員 雑魚寝で個々に就寝！ まくら投げは行わず！

(2日目) 11月13日(日) 快晴

駿府城→長田西小→安倍川→府中宿 (19)→伝馬町→華陽院→静鉄柚木

距離 7.90km (今日の歩行距離 $19.815 * 70cm = 13.87km$)

予報では寒くなるとの事だが、それほど寒くない。心地よい眠りから覚めたのは6時 すっきりしている。7時に 自家栽培の無農薬野菜を使った朝食（宿自慢）、ごはんがおいしい。朝食をしっかり取り、宿賃5000円を支払い、とりあえず車で駿府城に向かう。時刻は7時30分 駐車場に車を預け、城址見学、その後、丸子迄路線バスで向い、東海道歩きの旅とする。

御立ち 駿府城跡（駿府公園）

さっそく“駿府城”に参内する。4世紀 今川氏により今川館として誕生する。徳川家康も幼少時代に人質として、当地に留め置かれ、その後 武田館となるが、織田連合軍とで武田氏を滅ぼし、天正3（1585）年、家康が居城として、浜松より移り住む。慶長13（1608）年 前年に失火で焼失するが、直ちに 復元に取り掛かる（江戸城の修復用の木材をも転用したような）完成後間もなく又焼失し 慶長15年に完成している。天守は5層7階で、1階は





10間*7間(1間=7尺)で相当大きなものだった。寛永12(1635)年 城下の火災が延焼し焼け落ちた。その後 天守は再建されず、明治29(1896)年、静岡連隊が、駐留し城郭をも、取り壊され、更地に“天守閣跡”の碑がぽつりと立っていた。現在 外堀内には、県庁等の公共施設や学校が並び、再建は難しそうだ。平成8(1996)年“巽櫓”・“東御門”等が復元されてはいるが、昔の栄華はもう見られないだろう！ 天守閣の棟梁は、二条城と同じ人

だから、同じような物？・・・良く判らない？ 来週日曜日ドラマでは、家康が大樹の下で息を引き取る！・・・(でも死因は鯛の天婦羅に当たったとの事、きっと苦しんだのでは?) 時に家康75歳

市役所前より、路線バスで、“長田西小”へ、到着後 直ちに歩きの旅に出る。時は9時48分R208を東に進む、手越原でR1と交差し北上する。途中 思い出したように松が残っており、“富士の山”が見える。松と富士・・・絵になるが、写真には少し遠い。先方に“安倍川”が見えてきた。

安倍川



江戸時代 大井川同様、架橋を許さず、川越え人足に頼っていた。制度の廃止と共に、渡し船にとって変わるが、渇水期に川の水量が足りず、木製の仮橋が設けられたのが、橋の始まりである。現在はR208号用橋で、長さ490.7m本格的な鉄橋である。近年 横に歩道が設けられた。現在塗り替え工事中で、保護シートが張られ視界は、最悪だった。途中でロケット(国道事務所のパラボラ)が見えたが発射は不可能だろう。橋を渡ると“安倍川餅”を売っている店

が3軒並んでいた。あまり大きくない手前の店(橋本屋)に入った。餅を食す事となる。由来を聞きながら(家康公が上流の金山に、視察で訪れた時、餅に黄粉(金の粉)をまぶした所、大層お喜びになったとか?) 堤防下に“安倍川義夫の碑”(写真左)があり、人足義夫が、客の忘れた財布を追っかけて返した。客は礼を出したが受け取らず、役人に届け出・・・なんか 大岡裁きの様です。この辺の地名は“弥勒”で、公園に川会所があって、川越業務を担当する人足で結構繁盛した所(弥勒茶屋)と書いているが、その面影は今いずこ！ この先川越町より“府中宿”となる。



府中宿(19)

宿場の規模は、本陣2・脇本陣2・旅籠屋43・問屋場1と東海道では“大津宿”に次ぐ2番目に大きな宿場である。弥勒・川越町・新町・梅屋町で右折し人宿町に入る。旅籠“梅屋”では由比正雪が、取り手に囲まれ自殺した所である。七軒町を北上し“札の辻址”の標柱(駿府城



大手御門前の高札場設置跡)(写真)で右折する。今日は日曜日だろうか、

大変な人混みである。市役所前を通り、呉服町・江川町を経て伝馬町に至る。宿場と言うより、駿府城下町として発展した。古代以来国府がおかれ、代々戦国大名が館を構えたが、とりわけ家康が居城としたことで、城下町として、江戸並みに発展したと考えられる。



いやそれ以上かも！城下の人数も10万とも12万共言われ、江戸以上だったかも！戦前に大火と空襲があり、戦後は 県を中心地として、開発され、宿場の中心である本陣や問屋場のあった“**伝馬町**”や、宿場関係の施設は、見事に残されていない。明治初期 徳川慶喜が、駿府の地で謹慎する。その時 「府中」は「**天皇に不忠**」に通じるからと“**静岡**”に改名されたと言われているが、2世紀半前に“**方広寺の梵鐘**”に難癖を・・・回り回って自分の身か？

伝馬町

府中隋一の、目抜き通りを大名行列が往く。栄枯盛衰は世の倣い・・・けれどもこの町は、山間の宿場と違い、昔の頃の賑々しさを、現在も保っている。街並みは、昭和15年の大火・20年の大空襲により、ことごとく焼失し、道路は拡幅され、商家は再建され、当時の面影は 碑だけである。



おおき会東海道
11.11.13府中宿

先ず“**西郷山岡会見の史跡**”の“**松崎屋宅跡**”はベガサートビルになり、銘板には会見により江戸城の無血開城を達成したと記されている。両人の胸像は見当たらなかった。進むと“**本陣跡**”(写真左)・“**脇本陣跡**”の碑が立っている。大分東に進んで“**華陽院門前町**”の碑を見ていると、中野乳母車店の小父さんが、パンフレットを持ってきてくれ、“**華陽院**”(写真右)(人質時代の家康が学んだところで、祖母源応尼の墓がある。)を紹介してくれる。さらに東に進む。「東海道中膝栗毛」の作者である十辺者十九は、江戸で花開く前に、一時期伝馬町の住人だったと言われている。丁度12時 昼食の場所が見当たらず。腹も安倍川餅が残り まだ大丈夫！



おおき会東海道
11.11.13府中宿
華陽院

母源応尼の墓がある。)を紹介してくれる。さらに東に進む。「東海道中膝栗毛」の作者である十辺者十九は、江戸で花開く前に、一時期伝馬町の住人だったと言われている。丁度12時 昼食の場所が見当たらず。腹も安倍川餅が残り まだ大丈夫！

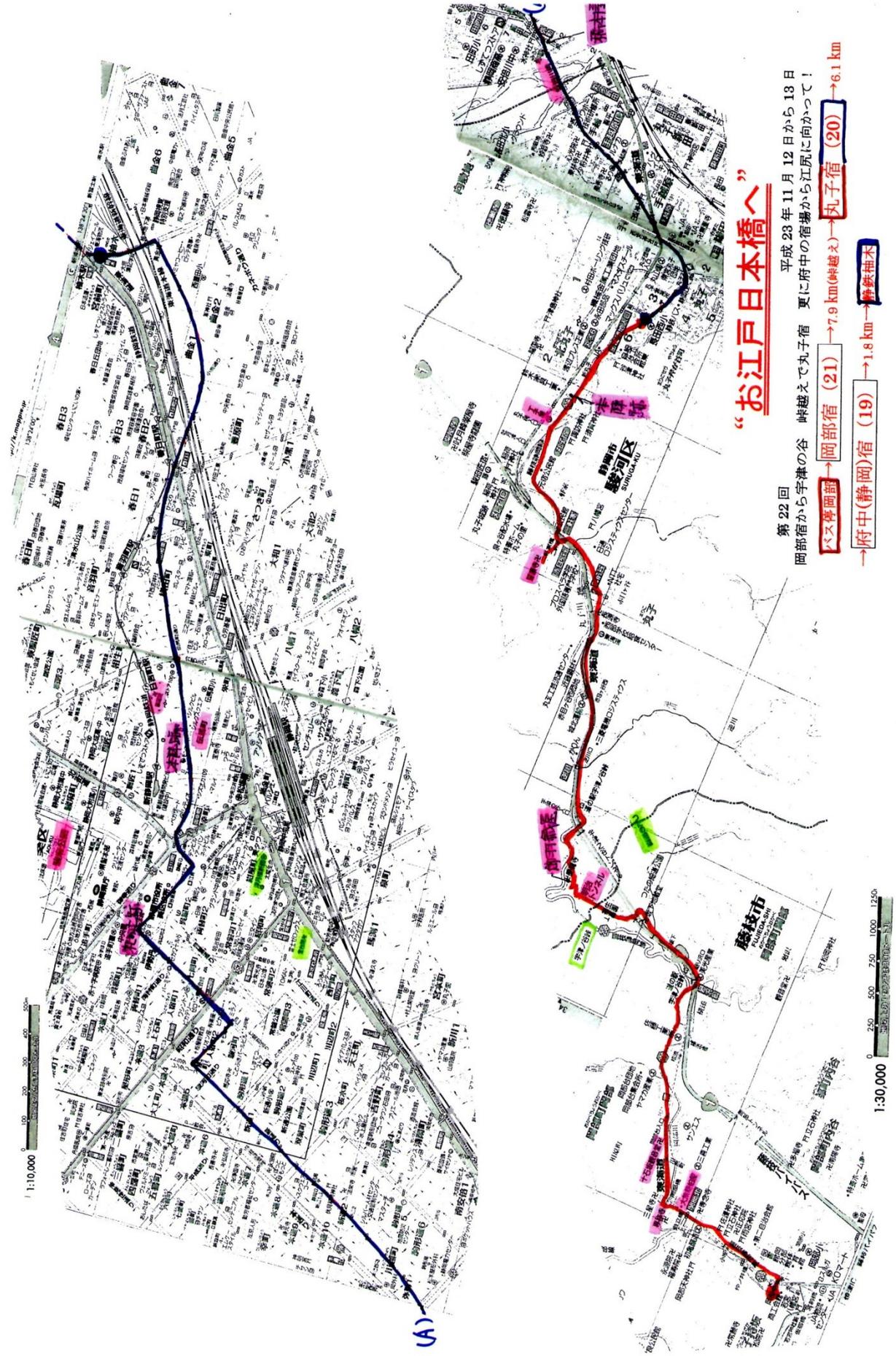
お着き 静岡 柚木

やがて“**横田町**”に入り、この辺に“**東の見付**”があるのだが見つからず。長い信号でR1と交差し、JRの地下道をくぐり「**曲金**」を歩く、何もなし・・・車も 少ない。柚木の地下道でJRをくぐりR1の陸橋より“**富士の山**”を眺め、無事 旅が出来たとお礼を申し上げる。13時半丁度 静岡鉄道“**柚木**”より“**新静岡**”へ戻る。料亭“**浮月楼**”は、代官屋敷があったところで、謹慎の解けた徳川慶喜が、過ごしたとされている。少し南の“**宝台院**”は、慶喜が明治元年、水戸から移ってきた所である。共に見学できなかった。少し遅いが昼食 駅周辺で食堂を探す。何を食べようか？ ウナギの量を1.5倍にした「ひつまぶし」全員それに決めた！ 料金800円 ウナギは静岡産か？ 駐車場へ急ぐ、今日の歩きはここまで！ 歩数19815歩。



おおき会東海道
11.11.13府中宿
柚木駅富士の山

静岡発14時20分、出来るだけ早く帰宅したい、途中最小限のトイレ休憩をとることにして、先を急ぐ。歩き疲れか、運転の藤井君以外は眠り、車内は静かだ！ そのまま高速を突っ走り、土山SAで、路銀の清算をする。高速代は高くなり3900?円 トイレを済ませ、枚方へ！ 思いの他 渋滞に巻き込まれず、八幡まで帰ってきた。毎度の事ながら、藤井さんの運転代わろうか？と思うが・・・結局一人運転 ご苦労さん！ 我が家の前で、降ろしてもらおう。皆に別れを告げ、見上げる空には、月に暈がくつきり 明日は晴れるだろうか？ (おわり)



“お江戸日本橋へ”

第22回 平成23年11月12日から13日
 岡部宿から宇津の谷 峠越えで丸子宿 更に府中の宿場から江尻に向かって！

- バス停岡部 → 岡部宿 (21) → 7.9 km (峠越え) → 丸子宿 (20) → 6.1 km
- 府中(静岡)宿 (19) → 1.8 km → 静鉄榑木